

第18回 病態生化学セミナーのご案内

日時：平成21年5月27日（水曜日）午後6時～

場所：医学部 臨床小講堂

演題：Friend ウイルス病因論研究が見せてくれた生物学的研究の醍醐味

演者：理化学研究所 名誉研究員、東京医科歯科大学 客員教授

井川 洋二 先生

数日で初期腫瘍性脾病変が検索できるFriend ウイルス（内在性ウイルスの皮膜糖蛋白の遺伝子を組み換えたGp55を腫瘍原性遺伝子として持つ）の発症機構を解析した。先ずこの遺伝子にヒト β アクチンプロモーターを着けてマウス受精卵雄核に注入して、gp55だけでFriend病が起こることを証明した。Gp55はEPORに結合し、そのシグナルがCFUeを増殖分化させ、第2、第3の遺伝子変異が加わって白血病表現型が固定されるとした（MCB、1998）が、黒いマウスでは起こらない。白いマウスではマクロファージ刺激蛋白の受容体（STK/RON）の細胞外部分が欠損して、このチロシンキナーゼ活性を上げ、アダプター蛋白を解してRas-Erk系へシグナルを送りCFUeを増殖させる。EPORの下流は潰すと分化は抑えられるがCFUeの増生は起こる。結着がついたと思ったFriend病病因論にまた新しい展開が起こった。『行き着けば、また新たな里の見え』である。【井川 洋二】

連絡先：

浦野 健

島根大学 医学部 病態生化学

TEL 0853-20-2126

E-mail turano@med.shimane-u.ac.jp